

研究者として、そして、女性として

My Life as a Scientist and as a Woman

佐々木 園 Sono SASAKI

4年制大学を卒業して私が高分子関係の企業に就職したのは、男女雇用機会均等法が公布された頃でした。とはいえ、まだ多くの企業が、女性職員の能力を組織でどう活かしていけばよいのか模索していた時代で、結婚・出産を機に退職する女性職員の数は依然として多かったと思います。

当時の私は、仕事の面において、社会人としてのやりがいのある役割と責任を果たし、経済的・精神的にも自立した女性になることを理想としていました。しかし、現実には、具体的な目標を見つけられずに日々の仕事に追われていました。一方で、私事では、結婚後の自分と理想の女性像とのギャップを埋める自信がもてずにいました。結婚適齢期の女性があたりまえに悩んでいた話と思われるかもしれませんが、既婚女性の社会進出に対して今ほど環境が整っていなかったことが原因ではなかったかと記憶しています。

いろいろと悩んだ結果、今後自分が歩むべき道をはっきりさせる必要があると考えて、大学院での勉学と研究活動を通じて社会的に自立できる力をつける決意をしました。三十歳の時です。今思えば、それが私の中での仕事と私事の折り合いをつける転機でした。

若手研究者（とくに女性の若手研究者）の皆さん、人生の転機は待っていても訪れません。自分でアクションを起してください。具体的な目標を設定して、それを自分で達成し、そして、新しい可能性にチャレンジしていくことで、また次の道が見えてきます。自分を信じて応援してくれる家族と多くの人たちに感謝して、頑張ってくださいと思います。

現在、私は、財団法人高輝度光科学研究センター



(財)高輝度光科学研究センター(JASRI) (679-5198 兵庫県佐用郡佐用町光都 1-1-1)・利用研究促進部門構造物性Iグループ、動的構造チームリーダー、主幹研究員、理学博士。1998年大阪大学大学院理学研究科高分子科学専攻博士後期課程中途退学。専門は高分子科学、放射光構造科学、物理化学。高分子学会男女共同参画委員会委員。



男女共同参画学協会連絡会シンポジウムポスター発表会場にて。(左から)吉江尚子先生、筆者、池田裕子先生(2008/10/7 京都大学)

(JASRI)に所属して、大型放射光施設 SPring-8 (兵庫県佐用郡)で放射光利用支援と研究活動を行っています。大学院で学んだ基礎知識や前職の経験もさることながら、これまでに研究や業務でご指導いただいた多くの先生方、ともに切磋琢磨した若手研究者と学生の皆さんとの出会いを通じて学んだ事柄が、今の私の仕事に大いに活かされています。人との良い出会いは、人生を豊かにするためのエッセンスであり、大きな財産だと思いますので大事にさせていただきたいと思います。

SPring-8は、放射光を利用した先端科学にかかわる技術や研究に早く接することができ、さまざまな分野の研究者と接する機会の多い研究施設です。今春から、高分子材料・ソフトマター科学分野の学術研究者たちと企業19社が協力して産学連合体を立ち上げて、フロンティアソフトマター開発産学連合ビームラインの建設を開始しました。再来年の春から正式運用が開始される予定です。このビームラインで産学の若手研究者、とくに女性研究者の行動力と発想力が活かされて、新たな学問分野が創成されることを期待しています。SPring-8でお会いするのを楽しみにしています。